

## 「跡」第41集の発刊によせて

仙台市小学校教育研究会  
理科研究部会長 丹野 富雄

仙台市小学校教育研究会理科研究部会は、長年にわたり研究と実践を積み重ねてまいりました。本年度も225名の会員を擁し、2部10係を中心にそれぞれ活発な活動を展開し、素晴らしい成果を上げることができました。会員の皆様方と共に喜び合いたいと思います。

さて、改めて小学校理科の教科の目標を確認してみたいと思います。目標は、以下のとおりです。

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

以上の目標を踏まえて、私たちは、理科の学習において、自然の事物・現象とのかかわり、科学的なかわり、生活とのかかわりを重視することにより、問題解決の能力や自然を愛する心情を育て、実感を伴った理解を図る指導を行ってきました。このように、児童が、科学的な見方や考え方をもちことができるようにするために、私たち会員一人一人が日々の学習活動を展開してきました。

学年別授業研究は、例年8つの授業が行われてきましたが、今年度は、10月と2月合わせて7つの授業が提供されました。1つの授業研究には、授業者をはじめとしておよそ20名の会員が運営に関わっています。例年、延べ160人の会員が授業づくりに関わっている計算になります。他の教科と比較して、全員参加と言っても過言ではありません。これは、仙小教研理科研究部会の会員一人一人の極めて高いモチベーションの表れです。

年間8回も行われる授業実践。1つ1つの授業が行われるまでの経過、その過程、実践、その後の話し合い、そしてまとめまでの一連の記録を収録したのが「跡」です。県小学校教育研究会理科研究部会には「理科教育のあゆみ」があり、仙台市小学校教育研究会理科研究部会には、この「跡」があります。この「跡」に掲載されている内容は、私たち全ての会員が、創意と工夫をこらして歩んできた教育実践の成果であり足跡です。

仙小教研理科研究部会では、貴重な実践記録集「跡」を会員の皆様方全員が日常の授業実践の場において活用されることを願っております。さらに、各学校におかれましては、会員以外の先生方にも広めていただき、更に有効活用に努めていただければ幸いです。そのためにも、仙小教研理科部会では、Webページの充実を図っています。この「跡」につきましても、Webページ (<http://www.sendai-c.ed.jp/~shorika/>) から多くの先生方に活用していただくことを願っております。

最後に、本年度も仙小教研理科部会の活動を支えていただきました関係諸機関の皆様方と、授業実践並びに編集に携わっていただきました理科部会の会員の先生方に、厚く感謝を申し上げ御礼といたします。

第3学年「太陽とかげの動きを調べよう」 教諭 橋本 拓也（仙台市立栴江小学校）

第5学年「物のとけ方」 教諭 小川 貴史（仙台市立岩切小学校）

第6学年「太陽と月の形」 教諭 T1：赤江 里香（仙台市立寺岡小学校）  
T2：亀谷 光（仙台市科学館）